

# 新たな多摩のビジョン



平成25（2013）年3月



## 「新たな多摩のビジョン」の策定にあたって



私が知事に就任してから、3か月余りが過ぎました。

この間、東京と日本が直面する様々な課題について、中身の濃い議論を重ね、「日本の沈没を防ぐのは東京にしかできない」ということを改めて強く確信しております。

東京には、1300万人もの都民が、区部、多摩地域、島しょなどで多様な暮らしを営んでいます。中でも、多摩地域は、戦後の高度成長に伴う東京の人口増加を吸収し、今や東京の人口の三分の一を擁するまでになりました。また、最先端産業や数多くの大学・研究機関が集積し、日本の心臓である東京の発展を担う重要な地域であるとともに、豊かな自然環境にも恵まれた、多様な魅力を持つ地域であります。

一方で、多摩地域では、区部に先行した人口減少局面の到来、大規模団地や都市インフラの老朽化、大規模工場の相次ぐ撤退などの課題も発生しています。これらの解決にあたっては、地域を取り巻く状況変化を「転機」と捉え、東京都、多摩の市町村、地域で活動する民間企業やNPOなど、様々な主体が一丸となって将来への道を切り拓いていく必要があります。

このような状況変化を踏まえ、今回策定した「新たな多摩のビジョン」では、これまでの「右肩上がりの成長・拡大」から「活力ある都市の成熟・持続」へと発想の転換を図り、それぞれの地域が持つ多様な特性を最大限に活用しながら、おおむね2030年頃を念頭に入れた、これからの多摩地域の進むべき大きな方向性を明らかにしました。

今後の多摩を取り巻く状況は、決して楽観視することはできませんが、このような時代だからこそ、現状をしっかりと見つめ、発想を転換し、未来を見据えた取組を一丸となって進めていくことで、多摩地域をさらに輝くまちとすることが可能となります。

そして、このビジョンに掲げた方向性を様々な主体が共有し、それぞれが自発的・主体的に活動する。その積み重ねが、新たな多摩の礎を築きあげていくことにつながると考えています。

本年は、多摩地域が東京府に移管されてから120年目の年となります。また、本年9月には、多摩地域を中心とした「スポーツ祭東京2013」が開催されるなど、多摩にとって一つの節目を迎える年ともいえます。

今後、東京都は、このビジョンを基に、多摩地域にとって必要な取組を早急に「決断」し、地域を取り巻く様々な課題を「突破」・「解決」することで、「魅力にあふれ、活力に満ち、安全・安心が確保された多摩」を実現していきます。

平成25（2013）年3月

東京都知事

猪瀬直樹

—目次—

I	これまでの多摩の歩み	1
II	多摩を取り巻く状況の変化	2
1	縮小に向かう社会	2
(1)	人口減少社会の到来と急激に進む高齢化	2
(2)	経済活動の縮小	4
2	更新需要の増大と都市化の影響	6
(1)	都市インフラの更新	6
(2)	建築物の老朽化	8
(3)	みどりの減少	10
3	安全・安心への脅威	12
4	自治体財政の悪化への懸念	14
III	『新たな多摩のビジョン』の策定にあたって	17
1	ビジョン策定の意義	17
2	ビジョンを貫く考え方	18
(1)	基本認識	18
(2)	目指すべき姿	19
(3)	3つの視点	20
IV	進むべき方向性	25
1	持続可能な暮らしやすいまちづくり	26
2	高付加価値を生み出す企業活動の促進	28
3	地域資源を活かした産業の活性化	30
4	地域を支える交通インフラの整備	32
5	災害に強いまちづくり	34
6	低炭素で自立分散型エネルギーのまちづくり	36
7	豊かな自然の保全と活用	38
8	「成熟・持続」に対応した行政サービスの展開	40
	参考資料『多摩の将来像 2001』の取組と検証	45
	『新たな多摩のビジョン（素案）』に対するご意見等について	57